

## 健康な子育て空間は「適材適所」で

1) 施設名（用途）	あゆみ第2保育園（保育園等施設）
2) 所在地	静岡市葵区瀬名中央 1-1-44
3) 事業実施主体	社会福祉法人あゆみ福祉会
4) 設計者	(有)静建企画設計一級建築士事務所（静岡市）
5) 施工者	鈴与建設(株)（静岡市）
6) 工期	平成28年8月～平成29年2月
7) 施設概要	木造2階建在来工法 準耐火構造 基礎 杉間伐材環境パイル使用 末口φ120 L=10m 2本継
8) 規模（延面積）	建築面積 551.49㎡（延床面積 999.90㎡）
9) 主な使用樹種	柱 赤松集成材 異等級構成集成材 丸柱 赤松集成材 同一等級構成集成材 梁 成450以下 赤松集成材 異等級構成集成材 成480以上 米松集成材 異等級構成集成材 土台 唐松集成材 異等級構成集成材 大引 赤松集成材 異等級構成集成材 床フローリング 厚30杉 オクシズ材本実加工
10) 施設の特徴等	<p>この園舎は(社福)あゆみ福祉会が目指す「心身ともに健康で、感性豊かな子育て」の理念の中の「健康な子育て」となる建築は何かを問うた時「木造の園舎」にたどり着きました。その規模から法的な制約は、準耐火構造で防火区画や内装制限が係り木の露出部が大きく制限されます。しかし、木造らしく見える方法を模索し、かつ「2階に発表会や卒園式が行える300人が収容できる場所の確保を」との園側の要求にこたえるためには一部が11mを越す柱間となります。その対処に特殊な工法や高倍率の耐震要素は使用せず、一般の木造住宅の延長上と捕らえ、基準法の中の筋交いや耐力壁の壁倍率を使用した在来軸組工法でできないか設計の苦慮が続きました。結果施工時の建て方には、地域の大工や工務店の5社が参加し、安全性を考慮したブラットホーム工法で棟上まで1ヶ月の工程となりました。大工さんから「私達でもこのような大規模で柱間の飛んだ建物もできるんですね」と言われた時、「これまでの苦労が報われた」とは設計者の言葉です。</p> <p>冬季における乳幼児の低温火傷を防止するため床パネルの暖房は設置せず、杉のフローリングを床に張り、壁や天井材に蓄熱機能を有する材で仕上げ、竣工時の測定でも床、壁、天井の温度差は5℃以内となりエアコンに頼らず自然で均一な空間ができました。竣工後建物の気密測定を行い、1階の保育室ではC値が0.17と超気密のランクに入りました。気密工事を施工した経験のない大工さんの手で最高の結果が得られ、改めて技量の高さが再確認されました。保育室に限らず廊下、便所でも準ずる効果が得られ、温・湿度の管理がしやすく「心身ともに健康な子育て」に役立つことが期待されています。</p>

【施設の画像】①東南外観（中上）、②西南屋根外観 1階乳児室庭の俯瞰（中下）、  
③日溜まりのある玄関ホール（右）、④間仕切壁収納後 4、5歳児保育室（左）

